

街角の話題

ひと 十字路

余命数カ月とされた大腸がんの60代女性は、あるロックバンドにはまってコンサートに通いつめ、2年後の今も元気に踊っている。

10万人に1〜2人と言われるGIST(消化管間質腫瘍)で、手術しても再発必至と告げられた30代男性は、手術せず徹底した食事療法を実践。温熱療法や心理療法も試み、3年目の今は仕事で海外を飛び回っている。

娘との長い不和が解消して間もなく、末期の乳がんが寛解した女性もいる。

NPO法人「緑の風へルスサポートジャパン」をつくば市に設立して4年半。手術・抗がん剤・放射線のがんの三大療法だけでは治らなかつた人たちの相談に乗り努力を

かけ、法人設立の直接のきっかけは、母親の二度目の

がん、胆管がんとの闘

を表現しようと2007年、22年間勤めた製薬会社を退職して設立した。薬学博士ながら「薬中心の西洋医学に限界を感じてもいたのです」。

翌08年には同法人の母を支えた父親との共通の願い「三大療法しか知らずに『がん難民』になつていく人たちに、正しい情報や多くの選択肢があることを伝えたい」

「がんは寛解。自然治癒力が高まった。か、がんは寛解。母を支えた父親との共通の願い「三大療法しか知らずに『がん難民』になつていく人たちに、正しい情報や多くの選択肢があることを伝えたい」

「がんは寛解。自然治癒力が高まった。か、がんは寛解。母を支えた父親との共通の願い「三大療法しか知らずに『がん難民』になつていく人たちに、正しい情報や多くの選択肢があることを伝えたい」

自分の治癒力を高めよう



がん統合医療コーディネーター

あつし 野本 篤志さん

をわかちあえたら。互いの話に聞き入る人たちからは「この会を知って助かった」との声も寄せられている。

1958年水戸市生まれ。妻・子二人と土浦市在住。同法人は調剤薬局を共同経営の傍らの活動。趣味は料理と、19歳の息子との登山。

12月18日午前10時30分から、つくば市のイーアスでのセミナー「子供の脳と心と体を守り育てる栄養学」の講師を務める。問い合わせは同法人(電話050・1417・5964)まで。

(赤穂容子)